

6月3日「ボランティア実践」 第2回活動報告



●今回は子育て支援を行いました。準備の時、みんなで協力してスムーズにできましたが、難波先生に「まえにまあおだサロンをやった班は次の班がスムーズにできるように内容とか配置を伝えておいた方がいいよ」と注意を受け、配慮が足りていなかったなど反省しました。子育て支援では最初、親子がこなかったのがみんなでどうすれば来てもらえるかを話し合いました。こない原因として、私たちがボランティアをしている時間はお昼寝の時間なのではないかという意見やそもそも連れてくるのが負担になるのではないかなどの意見が出ました。

私は、待機児童数を調べてその層に届くようにチラシやSNSを活用すればいいのではないかと考えました。

また、私たちが小さい子どもと遊んでいる間にお母さんには買い物や家事ができるように一時預かりという形が取ればお母さんたちは助かるのではないかとおもいます。しかし、私たちは高校生であり、保育の資格などがなく、コロナ禍であるためお母さんに不安な気持ちを与えてしまうのではないかと課題もあります。

そして、1組の親子が来てくださり、3人くらいで子どもと一緒に遊んだり、お母さんとコミュニケーションをとったりしました。お母さんと話す中で「今日は何を見てここに来たんですか？」という質問をしたところ、地域科のインスタのストーリーをみて来ましたとのこと、市の公式のSNSやホームページなどに今後のボランティア計画を載せたり、キューズモールなど目につきやすいところや保育園などにチラシを置いてもらうのもひとつの方法だなと感じました。子育て支援のボランティアを通してコロナ禍での子育ての不安や苦悩などをお聞きすることができ有意義な時間となりました。



●2回目の実践活動は、長洲公園の清掃と長洲小学校の小学生の見守り活動を行いました。まず長洲公園での清掃では落ち葉拾いや雑草抜きを行いました。暑かったので半ズボンで行ってしまい、とても蚊にかまれました。さまざまな虫もいて危ないので、長袖、長ズボンで清掃すべきだと感じました。このことをこれから清掃する班にも伝えたいと思います。また、長洲小学校の地域コーディネーターの大槻さんと清掃を行いました。印象に残っている言葉が、「楽しんで行わないと続かない」ということです。友達や先生、地域の方々と楽しんで清掃活動をすることで、これからも参加したいと思えるのだと感じました。また、小田高は過去に長洲公園の芝生張りを行ったり、ブランコやベンチに可愛らしく絵を描く活動を行なっていることを知りました。近くのアパートの壁にも同じように絵が描かれており、オーナーの方に描いてもいいよと承諾されたとのこと。地域の方々とつながりを見ることができてとても温かい気持ちになりました。



次に長洲小学校の下校している小学生の見守りを行いました。小学1,2年生が多く、とても活発で私たちが元気をもらいました。帰り道で道路の真ん中を歩いており、車や自転車とぶつかりそうになることもしばしばありました。見守りの方々がいることで子どもたちが安全に帰れるのだと感じました。私が小学生のころも毎日見守り活動を行なって下さっていた地域の方々がいました。普段気づかないところでもこのような活動をしてくださる方々がたくさんいると思います。私たちの安全があることを感謝したいと思いました。これらの活動を通して、些細なことではありますが、公園から小学校へ地域へ貢献していきたいです。

普段気づかないところでもこのような活動をしてくださる方々がたくさんいると思います。私たちの安全があることを感謝したいと思いました。これらの活動を通して、些細なことではありますが、公園から小学校へ地域へ貢献していきたいです。

